

A Two-Day International Seminar
 "Interlinking Linguistics and Literature – A Tool to 'Read' Japanese Literary Texts"
 November 3-4, 2017
 Centre for Japanese Studies, School of Language, Literature and Culture,
 Jawaharlal Nehru University, New Delhi
 In collaboration with the Japan Foundation, New Delhi

日本語学習から第二言語習得研究へ

From Japanese Language Learning to
 Second Language Acquisition Research

真嶋潤子
 MAJIMA Junko

Studies in Language and Culture
 Graduate School of Language and Culture
 Osaka University

<自己紹介>

大阪大学大学院言語文化研究科
 日本語・日本文化専攻

- ◆ 日本語学・言語学系域
 - ◆ 三原育子先生
- ◆ 日本文化学系域
 - ◆ 加藤均先生
- ◆ 日本語教育学系域
 - ◆ 小森万里先生
 - ◆ 真嶋潤子
 - ◆ 第二言語習得研究の枠組みでの個別性要因の研究
 - ◆ 言語マイノリティの児童生徒へのバイリンガル教育
 - ◆ 世界の言語教育政策へのCEFRの影響

本日の内容

- ◆ 第二言語習得研究とは
- ◆ 日本語の「間違い」について
 - ◆ Error or mistake?
- ◆ 「中間言語 Interlanguage」とは
- ◆ 第二言語習得研究の例
- ◆ 日本語教育学の役割

第二言語習得研究 (SLA研究)

研究対象は「言語」と「学習者」の両方

- ◆ 「何を」「どのように」「どのレベルまで」習得するの
- ◆ L2習得過程ではどのようなことが起こるのか
- ◆ 何を・どのように・どうして間違えるのか
- ◆ どのような学習方法が適しているのか
- ◆ 習得のうまい人・下手な人はどこが違うのか

誤用の例

- ◆ 友だちの〇〇さんにパスタを作ってくれました。
(NNS, 初級)
 - ◆ 今日、私の仕事、ちょっと、ちょっと、待って、お子さん、ダルメシアンの話、かわりのテープ、トトロのテープ、トトロ、as long as みなさん is、あー幸せ (NNS 初級、マレー語話者、
迫田2002:25より)
- 意味理解に支障を来すエラー → グローバルエラー
意味理解に影響しないエラー → ローカルエラー

JNU 国際セミナー © Junko Majima

誤用の例

- ◆ 前に、駅、会いましょう (KYコーパス)
- ◆ 赤いの車／昨日かったの本 (大関,2010)
- ◆ どこ、住んでいますですか。 (KYコーパス)

言語間エラー interlingual error → 目標言語と母語との差に起因

言語内エラー intralingual error → 目標言語の中での誤用

JNU 国際セミナー © Junko Majima

日本語学習者の中間言語

- ◆ 「山の上 (に) お弁当を食べました」
「に」: 存在、 場所+に+ある/いる
「で」: アクション、 場所+で+ Verb
- この学習者は、このルールを知っていた。
ではなぜ間違えたのか？
→ 「上」のあとには、「に」が来るという独自ルールを作っていた

迫田 (2002)

JNU 国際セミナー © Junko Majima

誤用分析への批判

- 表面的誤りとして現れない回避のストラテジー
- 横断的研究 cross-sectional study が主流で縦断的研究 longitudinal study がない

JNU 国際セミナー © Junko Majima

『中間言語』分析へ

- Selinker 1972 “Interlanguage”
- L1でもL2でもない学習者が作り上げた独自の発達途上の言語体系のこと
誤用分析のように「正用／誤用」という2分ではない。
- 学習者の自律的な言語体系であると捉える。

JNU 国際セミナー © Junko Majima

第二言語習得過程の研究史

- ◆ 第1期1950s-70s: 対照言語学的研究
contrastive linguistic
 - ◆ L1とL2(Target Language)
- ◆ 第2期1970s-80s: 学習者の誤用研究 error analysis
 - ◆ Errors and mistakes
- ◆ 第3期1980s-: 中間言語仮説
interlanguage hypothesis

誤用・中間言語の原因

- ◆ 言語転移 linguistic transfer: 母語が第二言語習得に影響をする 正の転移、負の転移がある。(化石化の原因は負の転移)
- ◆ 過剰一般化 overgeneralization: 言語内エラーの一種。一つの規則を別のケースにも適応させてしまう。
- ◆ 訓練上の転移 training transfer: 言語クラスでの指導や練習によって不自然な表現を使うようになる。
- ◆ 学習ストラテジー learning strategy: 間違った記憶のストラテジーなどを適用させてしまう

JNU 国際セミナー © Junko Majima

SLA研究の例

- 指示詞コソアの習得研究(モンゴル人、インド人)
- 授受動詞やりもらい(本動詞)の習得研究(エジプト人)
- 補助動詞としてのやりもらい動詞の習得研究(中国人)
- 複合動詞の習得研究(中国人)
- 「テイル」の習得研究(タイ人)
- 助詞「に」と「で」の習得研究(タイ人)
- 「ので」と「から」の習得研究(ロシア人)
- 受け身の習得研究(中国人)
- 自動詞・他動詞の習得研究(エジプト人)

JNU 国際セミナー © Junko Majima

第二言語習得研究が目指すもの

- 学習者が、「早く」「正確に」、学習目的を達成するための手助けをする（学習効率、学習効果）
- より良い教材開発
- より良い教授法開発
- 学習者の「満足」する日本語教育実践

応用言語学、日本語教育学の勧め

参考文献

- ◆ 庵功雄2013『日本語教育・日本語学の「次の一手」』くろしお出版
- ◆ 大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
- ◆ 小柳かおる(2004)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
- ◆ 迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- ◆ 中島和子(2016)『バイリンガル教育の方法 完全改訂版』アルク
- ◆ 中島和子(2010)『マルチリンガル教育への招待』ひつじ書房
- ◆ ライトバウン、パッツィ・M & スパダ、ニーナ(2014)『言語はどのように学ばれるかー外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』岩波書店 [Lightbown & Spada. 2013. "How Languages are Learned", Oxford University Press]
- ◆ Wright, B. & Garcia, O. (Eds.) 2015. "The Handbook of Bilingual and Multilingual Education", Wiley Blackwell.

JNU 国際セミナー © Junko Majima

ご静聴ありがとうございました。

真嶋潤子

JMAJIMA@LANG.OSAKA-U.AC.JP